

写真で眺める
北アメリカ州



↑1 ミュージカルの劇場が立ち並ぶブロードウェイ(アメリカ合衆国、ニューヨーク、2017年)

日本の街でもよく見かける企業の看板もあるね。



⇒ p.97、102

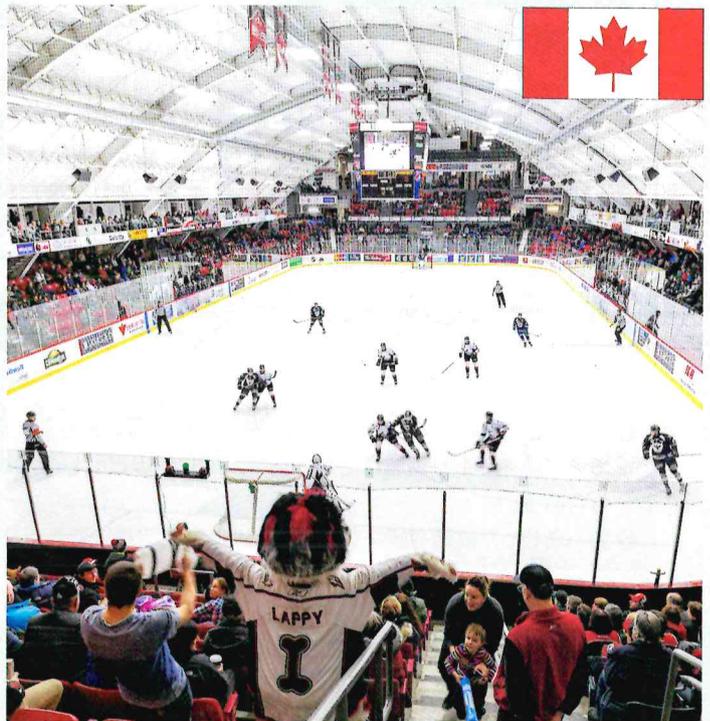
地図帳活用

北アメリカ州の鳥瞰図を眺めよう。



↑2 ロケットの工場(アメリカ合衆国、ケープカナベラル、2021年) 月を調査するために世界最大級のロケットがつくられています。

⇒ p.100



→3 アイスホッケーを観戦する人々(カナダ、ケベック州、2018年3月) アイスホッケーは人気のウィンタースポーツで、大人も子どもも楽しめます。 ⇒ p.95



↑4 ロッキー山脈(カナダ、バンフ近郊、9月) 美しい景色を見にたくさんの方が訪れます。➡ p.94



トルティーヤは
とうもろこしから
つくられているんだって。

➡5 タコスを食べる人々(メキシコ、メキシコシティ、2019年) タコスは牛肉や野菜をトルティーヤでくるんだ料理です。➡ p.96



↑6 アクセサリーを売るネイティブアメリカンの人々(アメリカ合衆国、サンタフェ、2019年) ➡ p.96



↑7 植民地時代のなごりがみられる町並みと古いアメリカ製の自動車
が人気のパハマ(キューバ、2017年) ➡ p.94、96

北アメリカ州の学習を見通そう

➡ p.105の振り返りでは、あなたの考える「写真で眺める北アメリカ州」をつくらう

この節では、特に写真1や2にみられるような世界をリードする【巨大な産業】を主題に、北アメリカ州がどのような特色をもつ地域なのか、学習していこう。



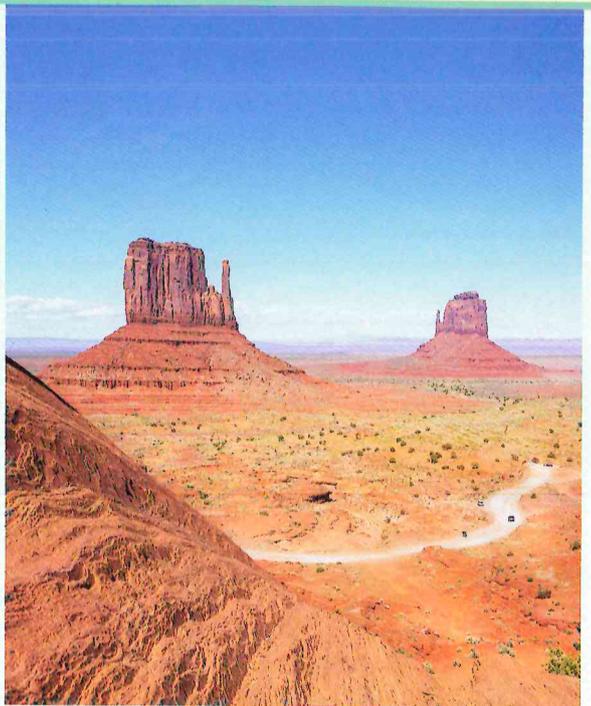
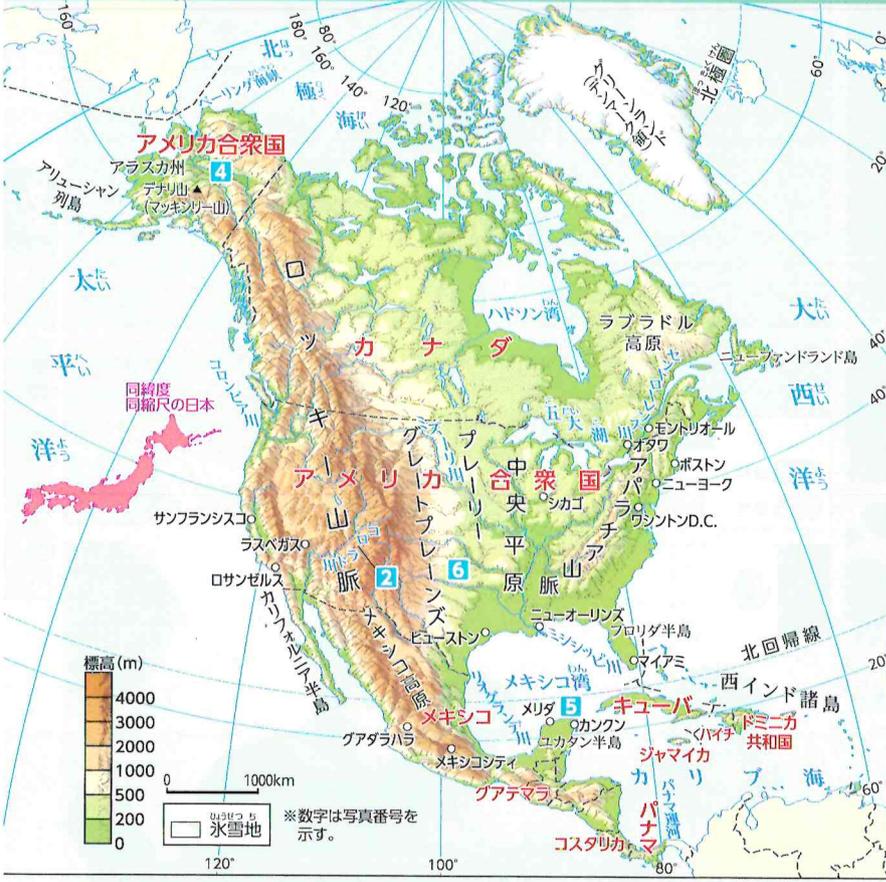
見通しスライド

第4節 北アメリカ州

注目する地球的課題：生産と消費の問題



4節の問い 北アメリカ州では、巨大な産業が発達したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



↑2 乾燥した大地が広がるモニュメントバレー（アメリカ合衆国、アリゾナ州）

←1 北アメリカ州の自然 **資料活用** 日本の緯度や面積との共通点や違いに注目しよう。

1 北アメリカ州の自然環境

学習課題 北アメリカ州は、地形や気候にどのような特徴がみられる地域なのだろうか。

面積	アジア 23.9%	ヨーロッパ 17.0%	アフリカ 22.8%	北アメリカ 16.4%	南アメリカ 13.4%	オセアニア 6.5%
人口	アジア 59.2%	ヨーロッパ 9.3%	アフリカ 17.9%	北アメリカ 7.5%	南アメリカ 5.5%	オセアニア 0.6%

※ロシアはヨーロッパ州に含む。(2022年) [Demographic Yearbook 2022]

↑3 世界に占める北アメリカ州の割合

解説 グレートプレーンズとプレーリー

グレートプレーンズは、ロッキー山脈の東に広がる高原状の大平原のことで、東に向かって緩やかに低くなっています。プレーリーは、ミシシッピ川の西に広がる草原のことで、自然の植生では丈の長い草が生えています。

北アメリカ大陸とカリブ海の島々

北アメリカ州には、カナダ、アメリカ合衆国、メキシコからパナマに至る北アメリカ大陸の国々と、カリブ海に浮かぶキューバ、ジャマイカなどの西インド諸島の国々があります。アメリカ合衆国の西部には、標高4000mを超える高山が連なるロッキー山脈が、カナダにかけて南北に長く伸びています。東部には、標高1000mほどのなだらかなアパラチア山脈があります。二つの山脈の間には、高原状の大平原であるグレートプレーンズや、北アメリカ大陸で最長のミシシッピ川が流れる中央平原が広がります。ミシシッピ川の西側には、メキシコ湾沿岸からカナダにかけてプレーリーとよばれる大草原が広がり、世界的な農業地帯となっています。メキシコは、中央にメキシコ高原があり、国土の大部分が高原と山地になっています。



↑4 北極圏に近い地域で見られるオーロラ(アメリカ合衆国、アラスカ州、2015年2月)



↑5 カリブ海に面したビーチリゾート(メキシコ、カンクン) サンゴ礁が美しい青い海を求めて、世界中から観光客が訪れます。



未来に向けて

大平原で発生する竜巻(トルネード)に備えて

防災

近年、日本でも竜巻発生ニュースをしばしば目にしますが、アメリカ合衆国の大平原では、毎年のように大きな竜巻が発生し、住宅などに甚大な被害を出しています。竜巻は、温められた地面に急に冷たい空気が入ってくると、発生しやすくなります。しかし、どこで発生するのか予測が困難なため、網の目のように観測網を敷いて、竜巻の発生確率の気象情報をテレビやラジオ、インターネットなどで知らせる取り組みが行われています。また、竜巻が発生した際に避難するためのシェルターを、住宅の地下に設置している家庭も多くあります。

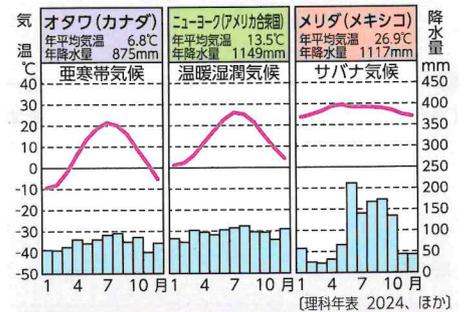


↑6 竜巻(上) (2016年)と地下シェルターに避難して竜巻から身を守った人々(左)(アメリカ合衆国、オクラホマ州)

寒帯から熱帯までの多様な気候

北アメリカ州には、寒帯から熱帯までのさまざまな気候がみられます。北極海に臨むア

メリカ合衆国のアラスカ州とカナダには寒帯がみられ、その南から五大湖周辺にかけては亜寒帯(冷帯)が広がります。一方、フロリダ半島の南部や、ユカタン半島からパナマにかけての中央アメリカ、西インド諸島は熱帯で、アメリカ合衆国のマイアミやメキシコのカンクンなど、世界的に知られるビーチリゾートもあります。



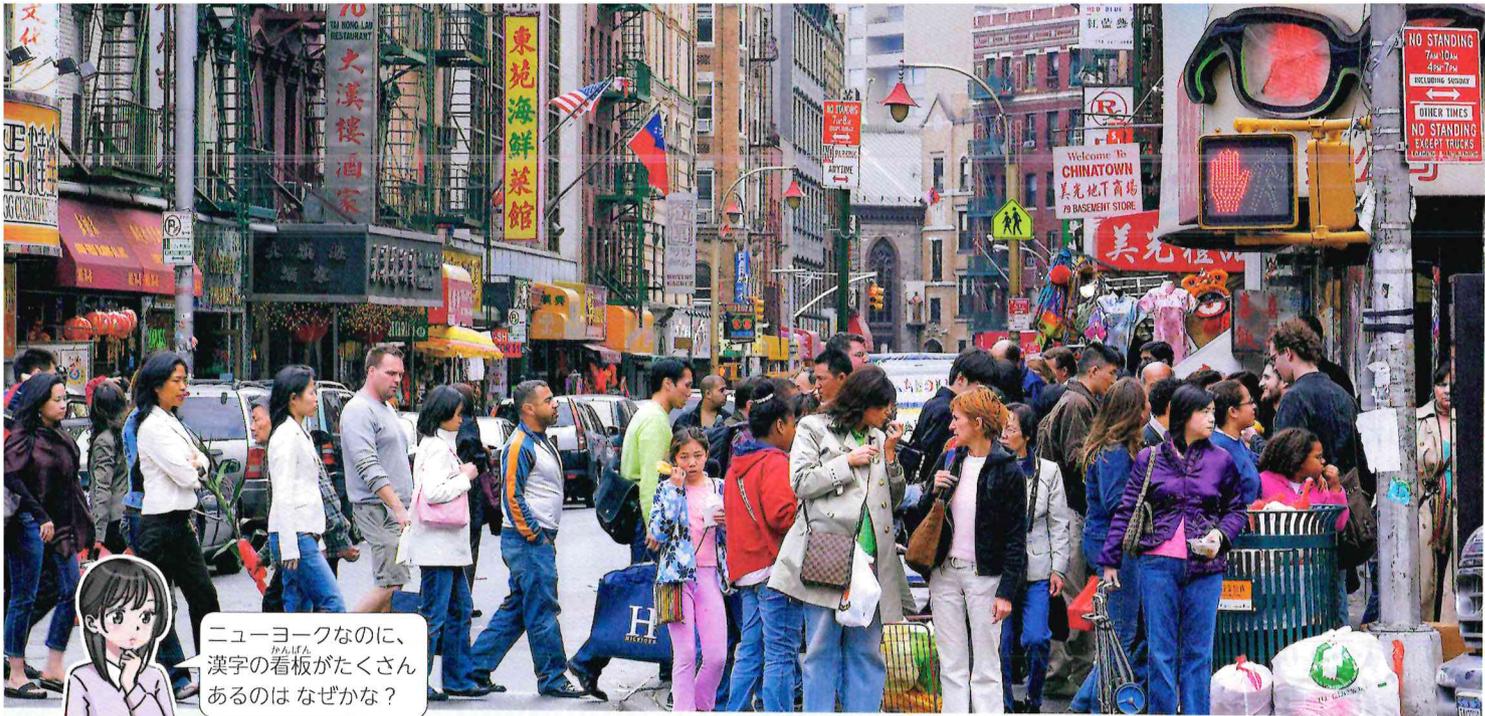
↑7 北アメリカ州の主な都市の雨温図

① 主に8月から10月にかけて、カリブ海やメキシコ湾で空気が温められることで発生する、台風のような熱帯低気圧のことをいいます。

図7の雨温図で示された都市の位置を、図1や地図帳で確認しよう。

アメリカ合衆国の地形や気候の特徴を、東部と西部に分けて説明しよう。

アメリカ合衆国の気候は、西経100度付近を境にして、東側の大西洋沿岸からメキシコ湾沿岸にかけては温暖で湿潤です。西へ行くほど降水量が少なくなり、南西部には砂漠気候もみられます。太平洋沿岸のカリフォルニア州は温暖で夏に降水量が少ない地中海性気候となり、オレンジやグレープフルーツなどのかんきつ類やぶどうが栽培されています。熱帯や温帯が広がるメキシコ湾に面した地域は、夏から秋にかけてハリケーンにたびたび襲われ、風雨や洪水による大きな災害に見舞われることがあります。



ニューヨークなのに、漢字の看板がたくさんあるのはなぜかな？

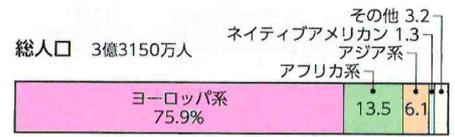
↑1 ニューヨークの中華街(チャイナタウン)(アメリカ合衆国)

2 移民の歴史と多様な民族・文化

4節の問い 北アメリカ州では、巨大な産業が発達したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

学習課題 北アメリカ州における民族の多様性は、地域にどのような変化をもたらしたのだろうか。

① アメリカインディアンのほか、エスキモー(カナダではイヌイット)などの人々を指します。



※総人口のうち18.7%がヒスパニック (2020年) (U.S. Census Bureau、ほか)

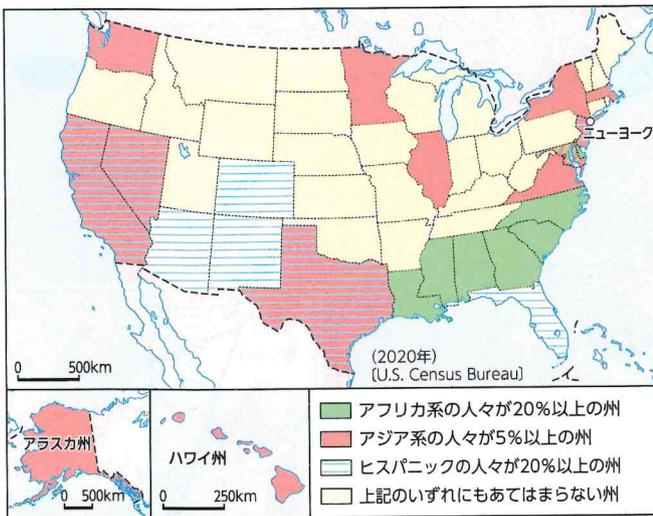
↑2 アメリカ合衆国の人種・民族構成

地図帳活用 アメリカ合衆国の成り立ちを確認しよう。

集まる多様な文化 ニューヨークの街を歩くと、英語ではなく中国語やイタリア語の看板が目立つ地区があり、それぞれの国の料理や文化を楽しむことができます。なかでも中華料理やイタリア料理は地元の人々だけでなく、ニューヨークを訪れる外国人にも親しまれています。また、アフリカ系の人が多いハーレム地区では、有名な歌手を多く輩出してきた劇場が人気を集めています。

先住民とヨーロッパからの移民 北アメリカにはもともとネイティブアメリカンとよばれる先住民が住んでいました。しかし16世紀に入ると、スペイン人が現在のメキシコやキューバなどに植民地をつくりました。さらに17世紀以降になると、イギリスやフランスの人々が、北アメリカ大陸の大西洋沿岸に植民地をつくり、ヨーロッパから大勢の移民がやってきました。

移民としてやってきた人々は、出身国の言語や文化などを持ち込んだので、アメリカ合衆国では英語を話す人が多く、メキシコなどではスペイン語を話す人が多くなりました。また、カナダにはフランス語を話す人が多い地域もあります。北アメリカ州の国々にキリスト教を信仰する人が多いのも、ヨーロッパからの移民が持ち込ん



↑3 アメリカ合衆国の人種・民族分布 小歴公 対話 ヒスパニックの人々が多い州を確認し、なぜそのような分布になるのか、理由を話し合おう。

だ文化的な特色の一つです。移民によって人口が増えてくると、海から離れた内陸部の開拓が進み、ヨーロッパ系の人々が移り住むようになりました。その一方、それまで各地で生活していた先住民は、住んでいた場所を追われ、人口が減少しました。

世界中から移民が集まるアメリカ合衆国 アメリカ合衆国には、その後もさまざまな民族が移り住みました。アフリカから連れてこられた奴隷は、西インド諸島のさとうきび農園の労働力とされたほか、アメリカ合衆国南部の綿花畑でも、農作業に従事させられました。19世紀に奴隷制が廃止されると、中国や日本などのアジア諸国からも仕事を求める人々が移住してきました。近年では、メキシコなどから移住してくるヒスパニックとよばれるスペイン語を話す人々が増えていきます。ヒスパニックの多くは比較的安い賃金で工場や農場、工事現場などで働いていますが、それでも国境を越えて移住するのは、母国よりも高い収入が得られるからです。

アメリカ合衆国では、言葉も出身国も違う人々が世界中から集まっているため、異なる文化が触れ合うことで、ジャズやミュージカル、ヒップホップなどの新しい文化も生まれています。そして、世界中から人が集まることは、現在のアメリカ合衆国の産業を支える大きな力となっています。一方で、アフリカ系やアジア系などの少数派の人種や民族への差別が、長い間問題となっており、差別の撤廃を求める運動が増加しています。

未来に向けて

二つの公用語があるカナダ

人権・多文化

カナダはかつてイギリスの植民地であったことから、長い間、英語が公用語とされてきました。しかし、フランスによって開拓が進められたケベック州のように、フランス語を話す人の割合が高い地域もあります。そこでカナダ政府は、1969年にフランス語も公用語と定めて、二つの言語は対等であるとしてきました。空港や街なかで見られる標識や看板などには、英語とフランス語が併記されています。

→4 フランス語と英語を併記した標識(カナダ、ケベック州)



↑5 レタスを収穫するヒスパニック(アメリカ合衆国、カリフォルニア州、2019年)



↑6 路上でのジャズの演奏(アメリカ合衆国、ニューオーリンズ、2018年) ジャズはアフリカとヨーロッパの音楽が合わさって生まれました。



確認しよう

北アメリカ州の住民構成の変化を、時期や出身地に注目して本文から書き出そう。



説明しよう

北アメリカ州に移民がやってきたことによって生じた変化の例を、一つ説明しよう。



↑1 広大な小麦畑での収穫作業(アメリカ合衆国、コロラド州、7月)

声 大型コンバインを使って収穫を請け負うコンバインクルーの話

5～9月までの間、収穫時期に合わせて契約した農家の畑の小麦を次々と収穫していきます。どの農地も自分の現在地が分からなくなるほど広大なので、人工衛星を使ったシステムで位置を確認しています。収穫が終わったらコンバインをトラックに積んで、次の畑まで何百kmも移動します。3か月の移動距離は、日本の北海道から沖縄よりも長いんです。



→2 コンバインクルーの移動ルートの例

3 大規模な農業と多様な農産物

4節の問い 北アメリカ州では、巨大な産業が発達したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



*農林水産業従事者 (2021年) [FAOSTAT, ほか]

↑3 アメリカ合衆国と日本の農業の比較

作物	オーストラリア	ウクライナ	フランス
小麦	ロシア 13.8%	カナダ 10.9%	その他 32.4%
とうもろこし	アメリカ合衆国 35.7%	ウクライナ 18.8%	ブラジル 12.5%
大豆	ブラジル 53.4%	アメリカ合衆国 32.9%	その他 4.1%
綿花	アメリカ合衆国 31.4%	ブラジル 21.3%	インド 13.6%

↑4 主な農産物の輸出に占めるアメリカ合衆国とカナダの割合



なぜ、北アメリカ州では、農産物を大量に生産したり、輸出したりできるのだろうか。

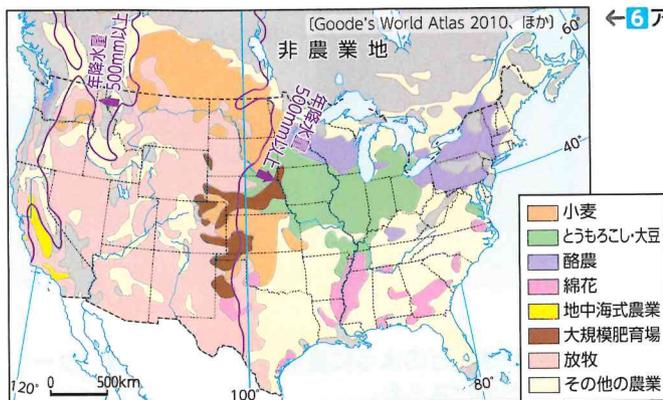
大規模な農業

アメリカ合衆国の農業は、収穫の様子を見ても、とても大規模であることが分かります。アメリカ合衆国の農産物の生産量は世界でも有数で、小麦、とうもろこし、大豆などが広大な土地を利用してつくられています。農家は大型機械を使い、少ない人手で高い生産性を上げています。以前は、多くの場合、農作業は家族数人で行われていました。しかし現在では、労働者を雇うなどして、利益を上げることを目的とした企業的な農業経営が多くなっています。このように多くの農産物を生産するアメリカ合衆国は、世界最大の農産物輸出国にもなっています。

自然環境に合わせた農業

アメリカ合衆国では、地域の気候や土壌などの自然環境に合わせた適地適作の農業が行われています。とうもろこしや大豆は、西経100度付近から東側の、降水量が比較的多い地域を中心に栽培されています。一方、西経100度から西側は、降水量が少なく主に牧草地として利用され、肉牛の放牧が盛んです。また、グレートプレーンズなどの内陸部では、豊富な地下水を利用した大規模なかんがいが行われ、小麦やとうも

→↓**5**円形農地に囲まれた肥育場(フィードロット)(右)とスプリンクラー(下)(アメリカ合衆国、テキサス州) 地下水をくみ上げ、回転するスプリンクラーで散水するので、農地は円形になり、ここで栽培される穀物が肥育場の肉牛の餌になっています。



ろこしなどが栽培されています。カリフォルニア州などの温暖な地域では果樹や野菜が栽培されており、農作業の多くはヒスパニックによって支えられています。大西洋沿岸や五大湖周辺では酪農が盛んで、周辺の大都市に乳製品を供給しています。南部では、早くから綿花が栽培されていましたが、現在はその規模が縮小し、燃料用・飼料用の大豆やとうもろこしの栽培が増えてきています。

世界の食料庫を支える巨大企業

アメリカ合衆国は、日本をはじめ世界の多くの国に対して農産物を輸出しているの、「世界の食料庫」とよばれています。

アメリカ合衆国の農産物の生産と輸出を支えているのが、農業に関連することを専門に扱うアグリビジネスを行っている企業です。アグリビジネスには、気象や作づけの情報提供、農作物の種子の開発、トラクターの製造、農産物の流通・販売などがあります。アグリビジネスを行う企業のなかでも、穀物メジャーは主に穀物を扱う巨大企業であり、世界の穀物の流通に大きな力をもっています。また、バイオテクノロジーを利用し、生産性の向上や味の改善を目的とした遺伝子組み換え作物の開発にも早くから取り組んでいる企業もあります。

↑**7**大規模な肥育場(フィードロット)(アメリカ合衆国、テキサス州) 放牧地で1~2年ほど放牧された肉牛が、出荷前に集められる施設です。フィードロットでは、栄養が多い餌が与えられ、肉質をよくしてから出荷されます。

地図帳活用

アメリカ合衆国の農場の様子を確認しよう。

解説 穀物メジャー

アグリビジネスを行う企業のなかでも特に規模が大きく、世界の小麦や大豆、とうもろこしなど穀物の流通をコントロールするほどの力をもっている巨大な穀物商社のことです。

① 生物がもつさまざまな働きを利用して、人間の生活に役立たせる技術のことで、農業や医療、エネルギーなどで活用されています。



確認しよう

アメリカ合衆国の農業が西経100度を境に東西でどのように違うのか、図6や本文で確認しよう。

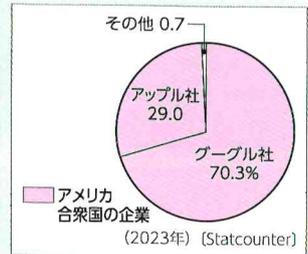


説明しよう

アメリカ合衆国が農産物を大量に輸出できる理由を、三つ説明しよう。



私たちが使っているスマートフォンやタブレット型端末は、どこの国の企業が開発したのかな？



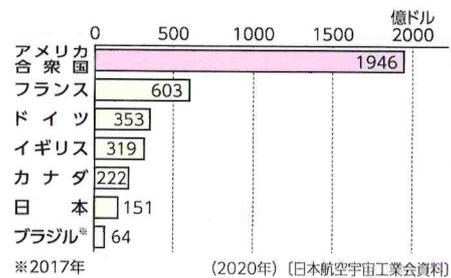
↑2 世界で使われている携帯端末のソフトウェアの企業別割合

※スマートフォンとタブレット型端末

↑1 シリコンバレーの ICT 企業による新製品の発表会(アメリカ合衆国、サンフランシスコ、2022年)

4 世界をリードする先端技術

4節の問い 北アメリカ州では、巨大な産業が発達したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



↑3 主な国の航空宇宙産業の生産額



↑4 新型コロナウイルス感染症ワクチンの開発(アメリカ合衆国、メリーランド州、2020年)

アメリカ合衆国の工業は、どのように変化しながら、世界をリードするまでに発達したのだろうか。

身の回りにあるアメリカ合衆国の製品 スマートフォンやタブレット型端末、パソコンのソフトウェアなど、私たちの身の回りには、アメリカ合衆国で開発された技術を用いた製品や機能があふれています。また、それらの技術を使ったインターネットやカーナビゲーションなども、私たちの生活に浸透しています。

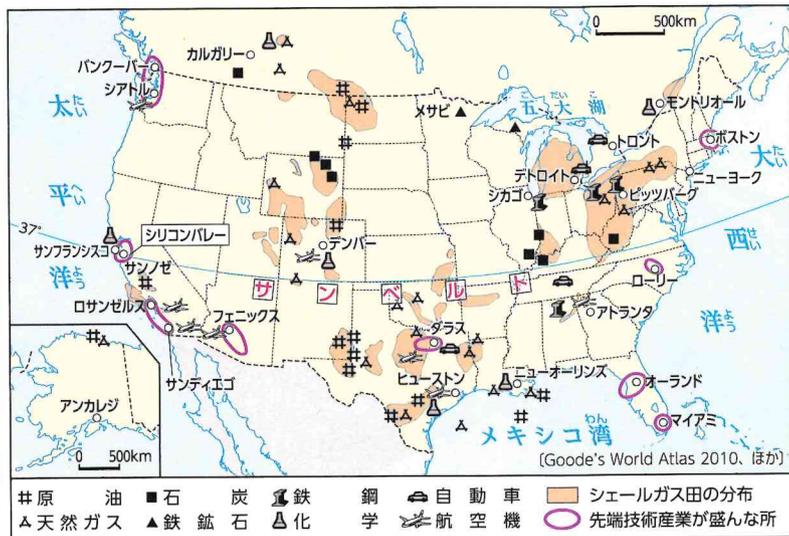
重工業から先端技術産業への変化 19世紀以降、北アメリカ大陸の北東部にある五大湖周辺では、石炭や鉄鉱石などの豊かな鉱産資源を生かして、大量の鉄鋼がつくられるようになりました。これらは五大湖の水運を生かして世界各国へ輸出されました。20世紀には、鉄鋼を材料とする自動車の生産がデトロイトで始まり、流れ作業を用いた大量生産方式による自動車産業が成長し、その後、この自動車生産のしくみは世界中に普及しました。

20世紀後半に、日本をはじめとするアジア諸国で生産された安くて高品質な鉄鋼や自動車がアメリカ合衆国へ輸出されるようになると、激しい生産競争のなかで、アメリカ合衆国は遅れをとるようになりました。そのため、航空機や人工衛星などを生産する航空宇宙産業や、電子機器などを生産するコンピュータ関連産業、バイオ

世界の人材が集まるシリコンバレー

サンフランシスコ郊外にあるシリコンバレーには、インドや中国、日本などから来たアジア系の技術者をはじめ、ヨーロッパ系の人々など、さまざまな国籍の優秀な人材が集まっています。彼らは自由な雰囲気の仕事場で、今までになかった技術や製品を開発し、高い報酬を得ています。そして、開発された新しい製品は世界の人々の生活に大きな影響を与えています。

→5 シリコンバレーのICT企業の様子(アメリカ合衆国、サンノゼ近郊、2018年)



↑6 アメリカ合衆国とカナダの主な鉱工業 (資料活用) 自動車と航空機の生産が盛んな地域に注目しよう。

テクノロジーなど、高い収益をもたらす先端技術産業に力を注ぐようになり、そのための研究機関もつくられました。

先端技術産業は、主に北緯37度より南のサンベルトとよばれる地域で発達しました。この地域は気候が温暖で、土地が安く手に入り、石油資源や労働力が豊富であるという長所がありました。なかでもカリフォルニア州のシリコンバレーには、先端技術産業の研究拠点となっている名門大学を中心として、多くの情報通信技術(ICT)企業が集中し、高度な技術の開発が進められています。

アメリカ合衆国ではこうした地域を中心に、パソコンやスマートフォンに用いるソフトウェアの開発や、感染症予防のためのワクチン開発といった医療の分野で、世界をリードしています。現在では、電気自動車や、その自動運転技術の開発なども注目されています。このほか、アメリカ合衆国に豊富に埋蔵されている天然ガスの一種であるシェールガスの開発も進められています。

国を超えた結びつき

アメリカ合衆国とカナダ、メキシコの3か国は、貿易を活発にさせるしくみを整え、結びつきを強めてきました。カナダの五大湖周辺では、アメリカ合衆国の企業と協力して、自動車の生産や研究などが行われています。メキシコには、アメリカ合衆国から自動車や電気機械などを生産する工場が進出しています。これは、賃金が安く、生産費用を抑えることができるためです。日本の企業もメキシコで自動車を生産しています。

アメリカ合衆国 合計 4兆6861億ドル	中国 14.8%	カナダ 14.3%	メキシコ 14.2%	その他 44.3%
	日本 4.6	ドイツ 4.3	韓国 3.5	

カナダ 合計 9907億ドル	アメリカ合衆国 62.1%	中国 9.2%	その他 20.8%
	ドイツ 2.1	韓国 2.2	

メキシコ 合計 1兆12億ドル	アメリカ合衆国 60.7%	中国 11.0%	その他 19.1%
	カナダ 2.4	日本 2.1	

(2021年) (UN Comtrade)

↑7 アメリカ合衆国・カナダ・メキシコの貿易相手国



↑8 メキシコに進出した日本の自動車メーカーの工場(ケレタロ近郊、2018年)

アメリカ合衆国が世界をリードする産業の分野を、図2・3や本文で確認しよう。

サンベルトで先端技術産業が発達した理由を、具体例を挙げて説明しよう。



どうしてこんなに
広い駐車場が
必要なのかな？

↑ 1 駐車場に囲まれたアメリカンフットボールのスタジアム(アメリカ合衆国、ノースカロライナ州)

5 アメリカ合衆国にみる 生産と消費の問題

4節の問い 北アメリカ州では、巨大な産業が発達したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。



(2020年) [日本自動車工業会資料、ほか]

↑ 2 主な国の100人あたりの自動車保有台数

解説 モータリゼーション

自動車^{いっぴん}が一般^{いっぴん}の人々の間に普及^{ひきあ}することによって、自動車^{いそん}に依存^{いそん}した生活と社会が進行^{しんこう}することです。

地図帳活用

アメリカ合衆国^{がっしゅうこく}生まれの大企業^{おほいきやう}の本社の位置^{ちゐ}をかくにん^{かくにん}確認^{かくにん}しよう。



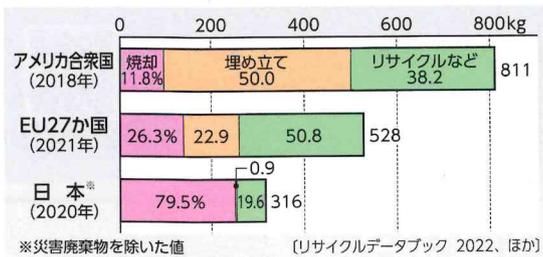
学習課題

アメリカ合衆国^{がっしゅうこく}の人々の生活には、どのような特色と課題があるのだろうか。

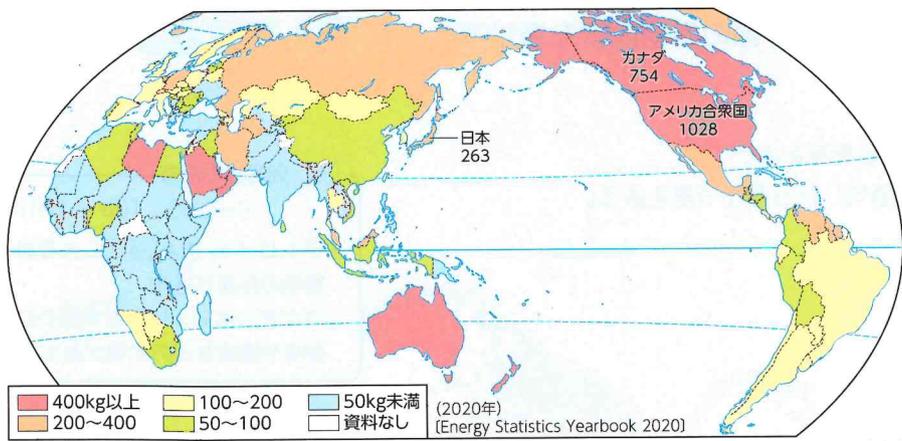
アメリカ合衆国の生活様式

アメリカ合衆国^{がっしゅうこく}のスタジアムには、大規模な^{きび}駐車場^{ちやうしや}を備えている所が多くあります。これは、日常的に車^{くるま}を使う生活^{しんごう}が人々に浸透^{しんとう}しており、試合の観戦にも車で訪れる人が多いからです。アメリカ合衆国では、自動車の大量生産^{りくたうせいさん}によって世界で最初にモータリゼーションが始まり、それと同時に都市をつなぐ高速道路網^{こうすうだうろく}の整備も進みました。都市の郊外には、広い駐車場をもつ巨大なショッピングセンターがつくられ、週末には大勢の買い物客が食料品などを大量にまとめ買いします。

アメリカ合衆国ではモノを大量に生産し、大量に消費する大量生産・大量消費^{りくたうせいさん・りくたうしょうひ}の生活様式が人々に浸透し、産業や経済を発展させる原動力にもなってきました。日本でも身近になったコンビニエンスストアや、ハンバーガーなどのファストフード店、コーヒーのチェーン店、テーマパークなどはアメリカ合衆国で生まれ、通信販売やインターネットによる買い物のしかたも、この国で発達しました。今日、これらの生活様式は、多くの国に販売や生産の拠点をもつ多国籍企業の進出とともに、世界中に広まっています。

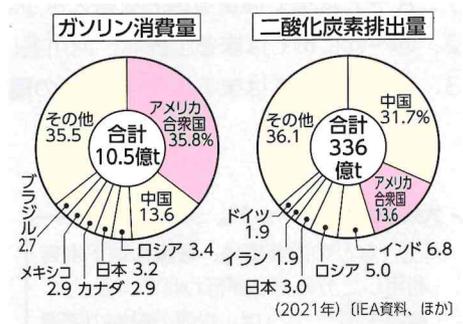


↑3 アメリカ合衆国・EU・日本の1人あたりの廃棄物処理量 **資料活用** それぞれの国・地域の廃棄物処理量の違いに注目しよう。



↑5 1人あたりのガソリン消費量 **対話** 1人あたりのガソリン消費量が多い国・地域を確認し、消費量が多い理由を話し合おう。

↑4 ごみの埋め立て処分場 (アメリカ合衆国、ミシガン州)



↑6 世界のガソリン消費量と二酸化炭素排出量の国別割合 **小歴公**

大量消費社会の課題

アメリカ合衆国の生活様式は、資源を大量に消費することで成り立っています。このため、排出される廃棄物の量が世界的にみても多く、その半分以上が内陸の土地などに埋め立て処分されています。国土が広いとはいえ、埋め立て処分場には限界があり、ほとんど分別されずに捨てられたプラスチックなどの廃棄物からは、有害物質が出る心配もあります。

また、車社会を支えるためには、多くのガソリンが必要です。そのため、アメリカ合衆国は世界で最もガソリン消費量が多い国でもあります。ガソリンの消費が増えると、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出量が増加し、地球温暖化が進むと考えられています。

持続可能な社会の実現のために

近年のアメリカ合衆国では、持続可能な社会の実現に向けて、ごみの分別とリサイクルを進めたり、食べられる食品を廃棄しないようにするしくみをつくったりして、資源を大切に作る動きがみられるようになってきています。また、大規模な太陽光発電施設を建設して再生可能エネルギーの利用を進める取り組みも行われています。



↑7 フードバンクから食品を受け取る人 (アメリカ合衆国、ニューヨーク、2021年) まだ食べられるにもかかわらず廃棄予定となった食品を引き取り、食べ物を必要としている人々に届ける取り組みはフードバンクとよばれています。

確認しよう アメリカ合衆国の生活様式の特徴とそれに伴う課題を、写真1や本文で確認しよう。

説明しよう 持続可能な社会を目指すためにアメリカ合衆国で行われている取り組みについて説明しよう。



4節の問い 見方・考え方 地域の特徴 (→巻頭 8)

北アメリカ州では、巨大な産業が発達したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

節の振り返り 1 学んだことを確かめ、節の学習内容を振り返ろう 知識 地図帳活用

1. A ~ E にあてはまる国名を答えよう。
2. ㉑ ~ ㉔ にあてはまる山脈名、河川名、湖名を答えよう。
3. ① ~ ⑥ にあてはまる語句を、「節の重要語句」から選んで答えよう。

大規模な農業 (→ p.94, 98 ~ 99)

- ・ ① などの内陸部は、豊富な地下水を利用したかんがいが行われている
- ・ 穀物を扱う ② は、世界の穀物の流通に大きな影響を与える

西経 100 度よりも西側の地域 (→ p.95, 98)

- ・ 降水量の少ない地域で放牧が盛ん

③ (→ p.101)

- ・ 北緯 37 度より南の先端技術産業が盛んな地域
- ・ カリフォルニア州の ④ には ICT 企業が集中

C (→ p.94, 96 ~ 97, 101)

- ・ ⑤ とよばれるスペイン語を話す人々がアメリカ合衆国へ移住
- ・ アメリカ合衆国から自動車や電気機械などの工場が進出

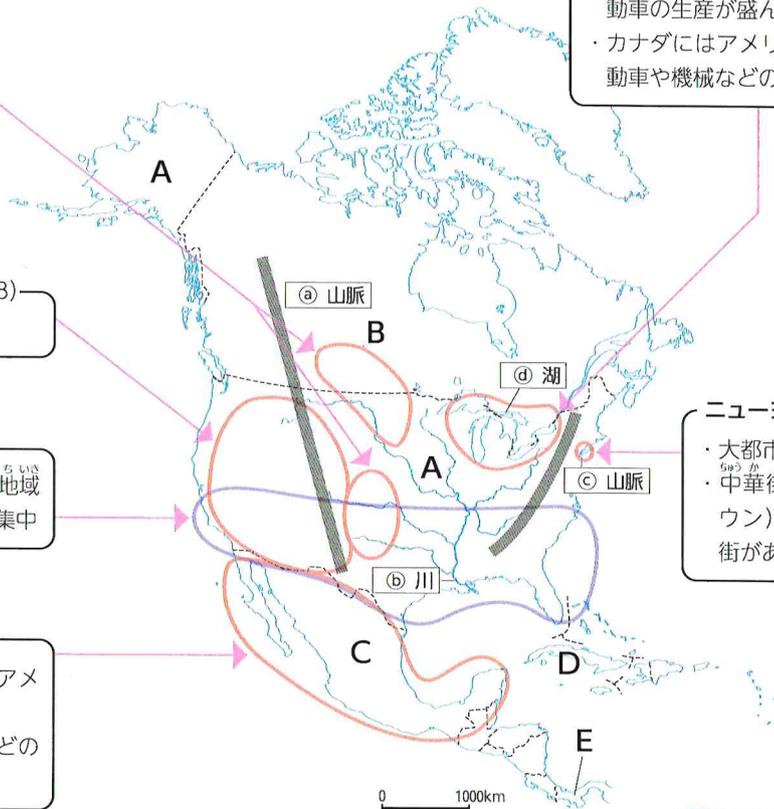
㉔ 湖周辺の都市

(→ p.95, 100 ~ 101)

- ・ デトロイトでは ⑥ による自動車の生産が盛ん
- ・ カナダにはアメリカ合衆国の自動車や機械などの工場が進出

ニューヨーク (→ p.96)

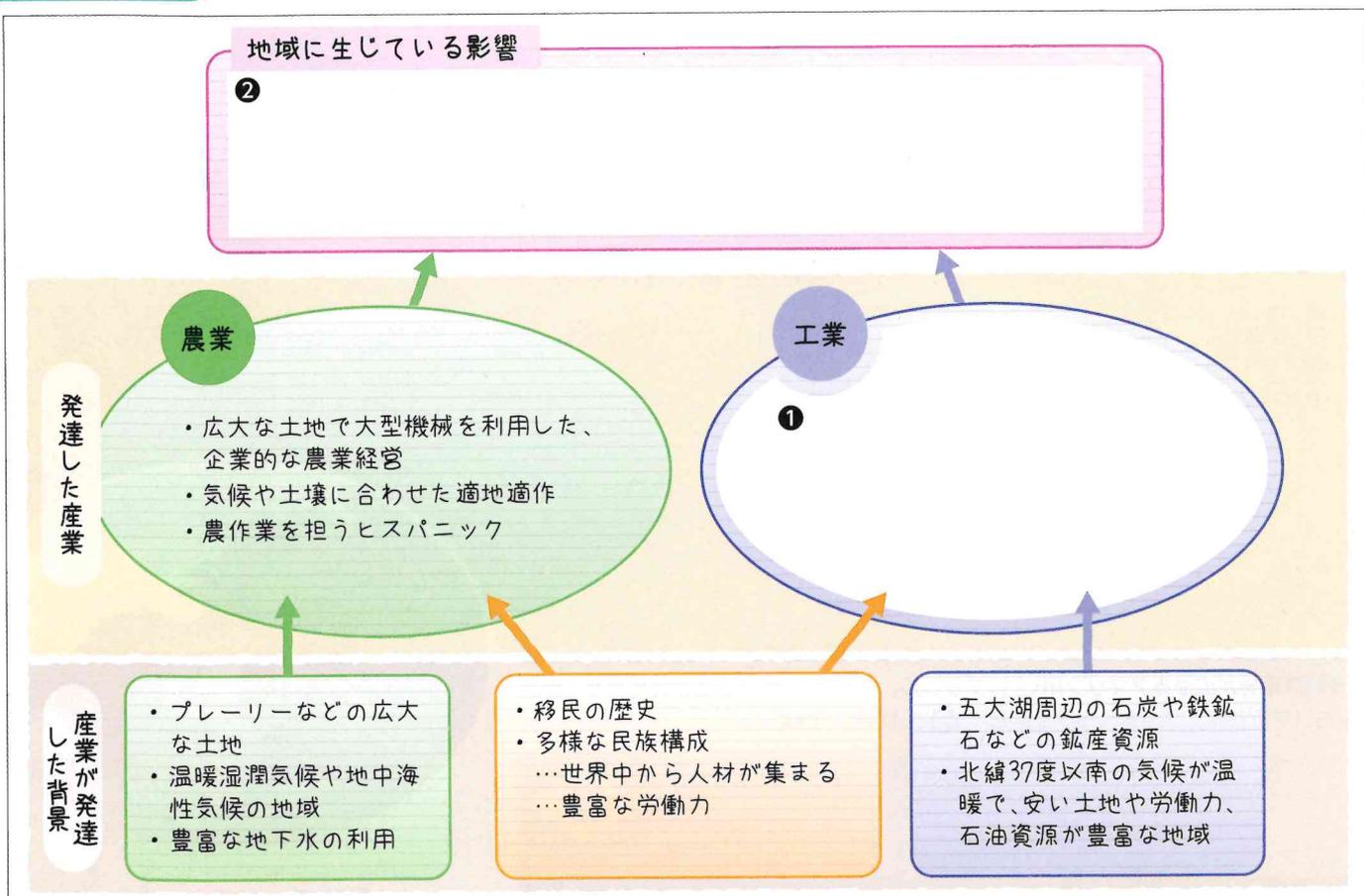
- ・ 大都市の一つ
- ・ 中華街(チャイナタウン)などの移民の街がある



↑ 1 白地図を使ったまとめ

節の重要語句 簡単な説明ができた語句にチェックを入れよう。

- | | | | |
|-------------------------------------|----------------------------------|----------------------------------|------------------------------------|
| <input type="checkbox"/> グレートプレーンズ | <input type="checkbox"/> 奴隷 | <input type="checkbox"/> 大量生産方式 | <input type="checkbox"/> モータリゼーション |
| <input type="checkbox"/> プレーリー | <input type="checkbox"/> ヒスパニック | <input type="checkbox"/> 先端技術産業 | <input type="checkbox"/> 大量生産・大量消費 |
| <input type="checkbox"/> 五大湖 | <input type="checkbox"/> 適地適作 | <input type="checkbox"/> サンベルト | <input type="checkbox"/> 多国籍企業 |
| <input type="checkbox"/> ネイティブアメリカン | <input type="checkbox"/> アグリビジネス | <input type="checkbox"/> シリコンバレー | <input type="checkbox"/> 地球温暖化 |
| <input type="checkbox"/> 移民 | <input type="checkbox"/> 穀物メジャー | <input type="checkbox"/> シェールガス | <input type="checkbox"/> 再生可能エネルギー |



↑ 2 アメリカ合衆国における産業の特色と地域への影響をまとめた例

1 節の問いについて、図でまとめよう

◆この節の学習を振り返りながら、図2の①・②を埋めて、アメリカ合衆国における、産業の特色と地域への影響についてのまとめを完成させよう。

2 節の問いについて、考えを深めよう (対話)

◆図2をもとに、アメリカ合衆国の産業の発達とそれによる地域への影響を表す写真を、教科書やウェブサイトなどから1枚選ぼう。

◆グループになって、選んだ写真とその理由を発表し合おう。そして、あなたたちだけの「写真で眺める北アメリカ州(→p.92～93)」をつくり、地域の特色を示すタイトルをつけよう。

3 節の問いを踏まえて地域の特色をまとめよう

◆図2と②をもとに、北アメリカ州の特色を文章で簡単にまとめよう。

4 節の問い

北アメリカ州では、巨大な産業が発達したことによって、地域にどのような影響が生じているのだろうか。

- ヒント1 北アメリカ州で巨大な産業が発達した背景は？
- ヒント2 発達した巨大な産業の特色とその影響は？

振り返り

主体的な学び

- 節の問いの解決に向けて主体的に取り組むことが
よくできた できた あまりできなかった
 →よくできた点や改善したい点などを書き出そう。
- 節の学習を終えて、新たな疑問や探究したいこと、深めたいことなどを書き出そう。